



燦ホールディングス株式会社
SAN HOLDINGS

燦ホールディングス株式会社

第2四半期決算補足資料（2021年3月期）

東証一部
証券コード 9628

目次

2021年3月期第2四半期決算概要	P 03
コロナの影響および通期予想等	P 11
事業環境認識	P 18
新型コロナウイルスに関する当社の対応	P 20
中期経営計画の基本方針（進捗・今後）	P 24

- ・当第2四半期（累計）は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け減収減益
- ・通期業績予想は、第2四半期までの利益上振れはあったものの、期末までコロナの影響が続くとの判断の下、当初予想を据置

2Q累計業績

- ｜ 2Q累計で前期比2割弱の減収、営業利益以下はほぼ半減
- ｜ 前期対比乖離は小さくないが、1Q対比2Qは業績が改善した。
- ｜ 減収の主な要因は、コロナ影響による以下の2つ
 - 「お別れの会」を中心とした大規模葬の減少
 - 一般葬の単価低下
- ｜ 費用は直接費の減少のほか、主に人件費や広告宣伝費、水道光熱費等が減少し、固定費の増加を吸収。一般管理費も人件費、旅費交通費、求人・採用関連費用等が減少。

業績予想

- ｜ コロナ影響の前提を、2020年年末まで 2021年3月末までに変更
- ｜ 上期の利益上振れはあるものの、通期予想は今のところ据置

配当予想

- ｜ 年1円増配の1株につき32円を予定（当初予想据置）
（中間配当は16円で決定）

第2四半期（累計）損益

- ・ 営業収益は、前年同期比17.1%減収の86億円、営業利益・経常利益は同50%弱の減益で、各7億円台にとどまった。
- ・ 当期大きな特別損益は発生せず。税金費用は半減するも四半期純利益は50%強の減益
- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大を背景とする葬儀の小規模化が減収・減益の主要因

(単位:百万円)

	FY2019 2Q累計	FY2020 2Q累計	前年同期比		FY2020業績予想	
			増減率	増減額	4Q累計	進捗率
営業収益	10,375	8,604	-17.1%	1,771	19,400	44.4%
営業費用	8,170	7,204	-11.8%	965		
一般管理費	717	623	-13.0%	93		
営業利益	1,487	775	-47.9%	712	1,500	51.7%
営業利益率	14.3%	9.0%	-5.3pt		7.7%	
経常利益	1,489	765	-48.7%	724	1,460	52.4%
四半期純利益	979	478	-51.2%	501	880	54.3%
1株当たり利益(円)	87.14	43.24	-50.4%		79.64	

第1・第2四半期損益

- ・ 1Q、2Qとも対前年同期比減収・減益ながら、減収率、減益率とも1Qより2Qの方が緩和している。2Qはコロナ影響からの回復の兆候が見えた。
- ・ 営業利益率は1Qの6.5%から2Qの11.3%へと2桁台に戻した。

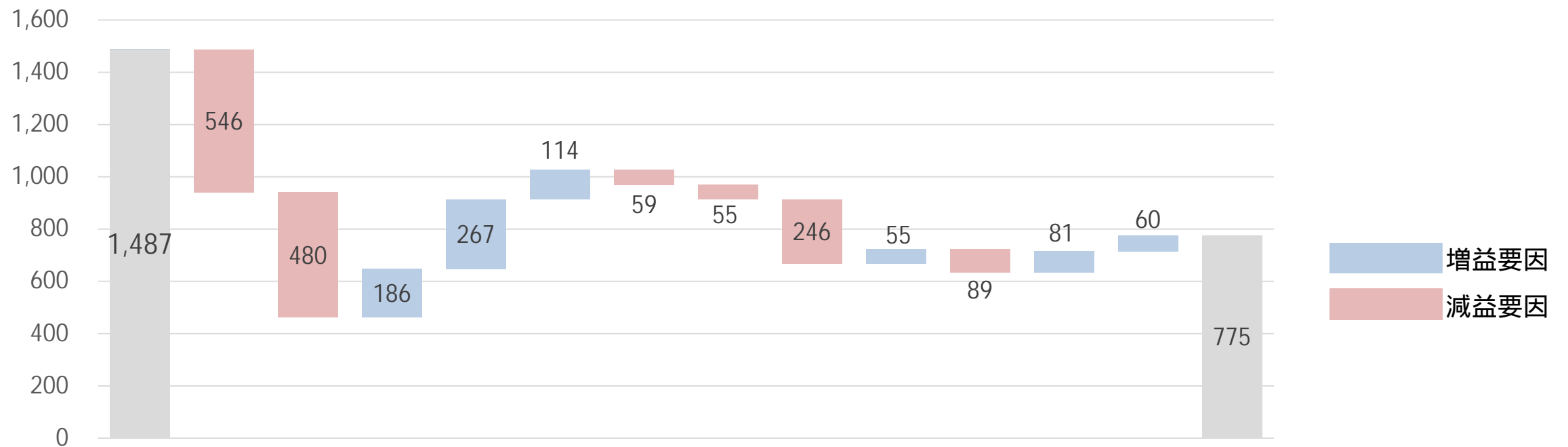
(単位:百万円)

	FY2019 1Q	FY2020 1Q	前年同期比 増減率	FY2019 2Q	FY2020 2Q	前年同期比 増減率
営業収益	4,984	4,055	-18.6%	5,390	4,548	-15.6%
営業費用	4,036	3,478	-13.8%	4,134	3,726	-9.9%
一般管理費	358	315	-12.1%	358	308	-13.9%
営業利益	589	262	-55.5%	898	513	-42.9%
営業利益率	11.8%	6.5%	-5.3pt	16.7%	11.3%	-5.4pt
経常利益	582	262	-55.0%	907	502	-44.6%
四半期純利益	376	162	-56.7%	603	315	-47.8%

営業利益の増減要因分析

公益社（葬儀・アフター販売等）、ESSC（料理）の減収が大きく、各社で人件費その他の費用を削減したにもかかわらず、営業利益は前年同期比47.9%の減益

（百万円）

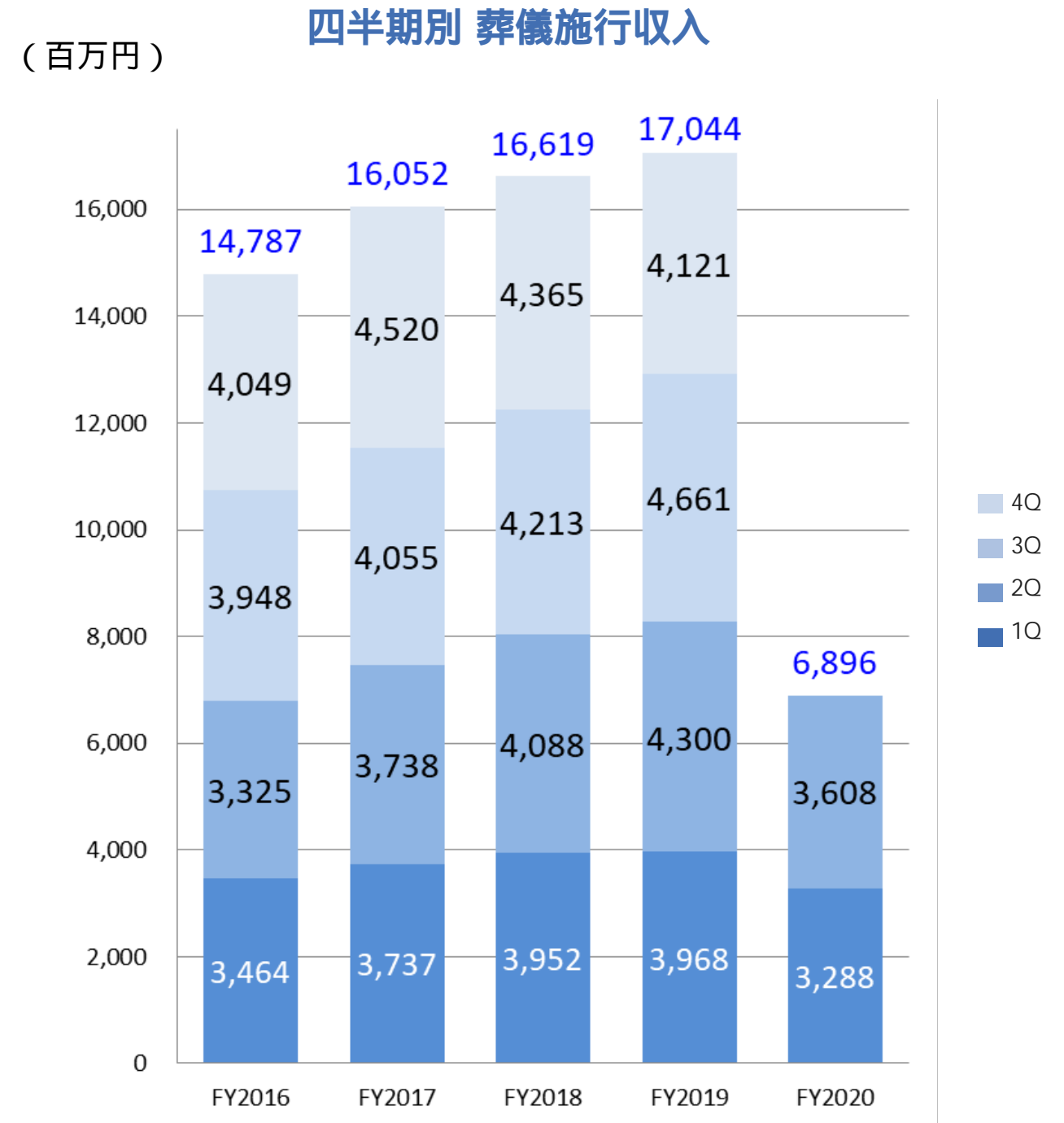
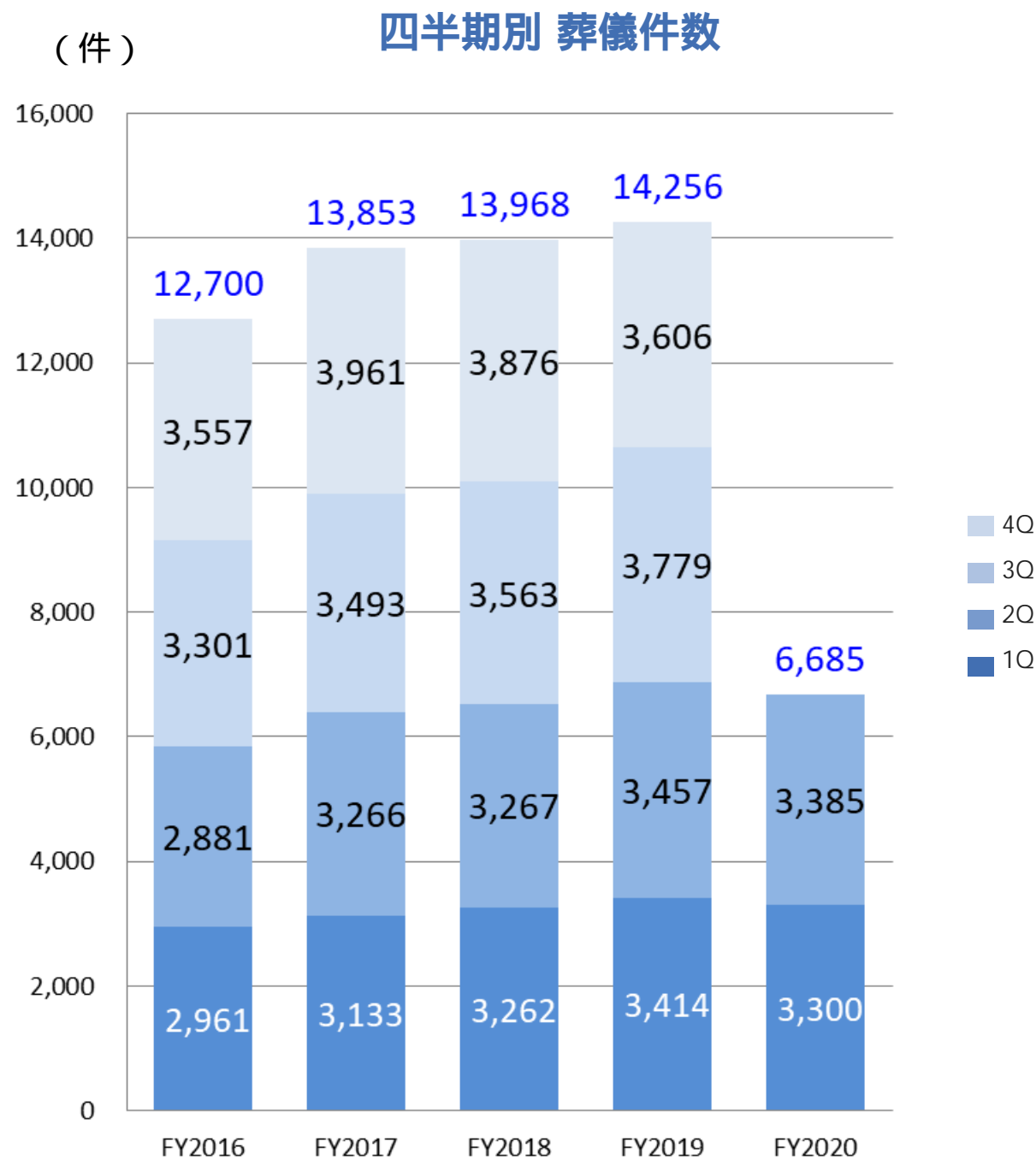


営業利益（前期）
（公）関西圏減収による減益（ ）
（公）首都圏減収による減益（ ）
（公）直接費率低下による増益
（公）人件費減
（公）統制可能費減
（葬仙）減収による減益（ ）
（タリイ）減収による減益（ ）
（ESSC）減収による減益（ ）
（ESSC）人件費減
（LF）営業損失（ ）
（燦）管理費減
（人件費、採用費、交通費等）
その他
営業利益（当期）

（公）は公益社、（ESSC）はエクセル・サポート・サービス、（LF）はライフフォワードの各社を示す。

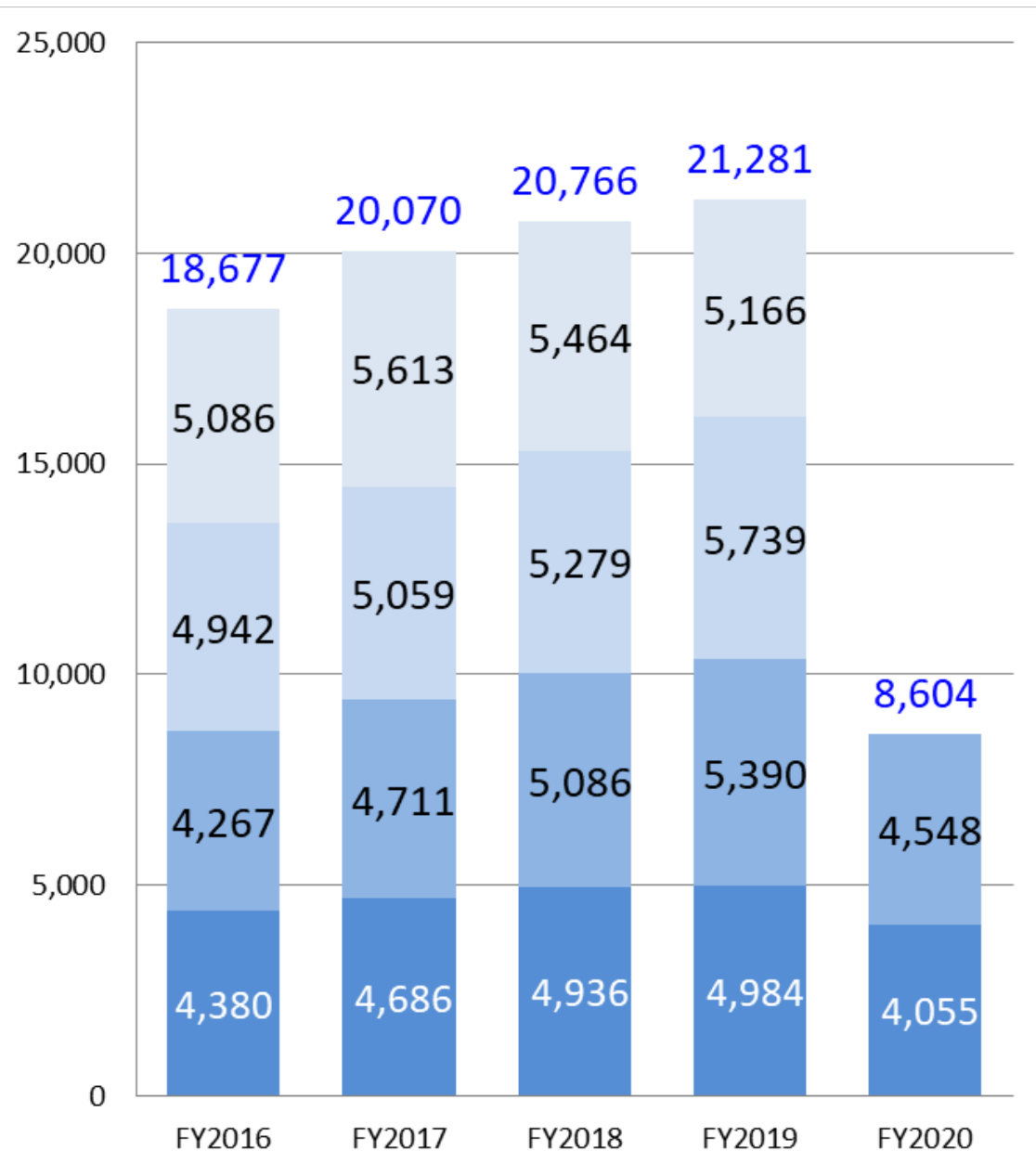
グループの葬儀件数・施行収入の推移

2Q累計で葬儀件数は2.7%の減少、葬儀施行収入は16.1%の減収
 コロナ影響によって、大規模葬儀が減少し、一般葬儀も小規模化したことによる減収

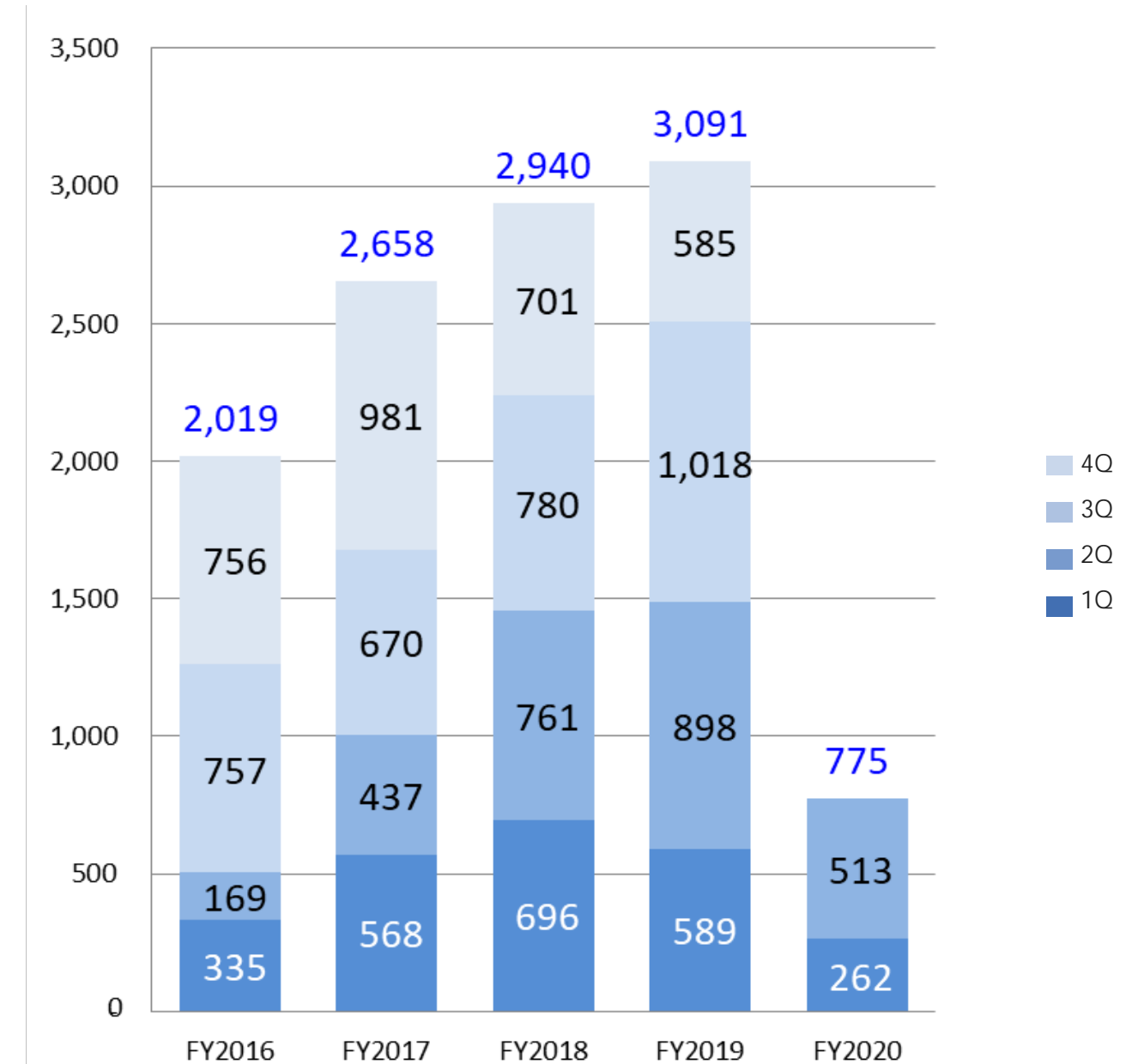


2Q累計で営業収益は17.1%の減収、営業利益は47.9%の減益。2Qは1Qより改善した（減収率： 18.6% 15.6%、減益率： 55.5% 42.9%）が、累計での乖離は大きい。

（件） 四半期別 営業収益



（百万円） 四半期別 営業利益



貸借対照表の増減（資産の部）

バランスシートは前期末比8.9億円の縮小。資産では流動資産の減少（現預金の減少が主要因）がほぼこれに見合う。設備投資額の9割超は減価償却費でまかなわれているため、有形固定資産は微増にとどまる。

（単位：百万円）

	2020年3月末	2020年9月末	前年度末比 増減額
流動資産	7,264	6,401	862
現金及び預金	6,428	5,494	934
営業未収入金	493	429	64
固定資産	24,610	24,581	28
有形固定資産	22,283	22,321	38
建物及び構築物	9,390	9,292	98
投資その他の資産	2,229	2,108	120
資産合計	31,874	30,982	891

（注）勘定科目の詳細は主要なもののみ示した。

（参考）

設備投資額	471百万円	(FY2020 2Q累計)
有形固定資産の減価償却費	439百万円	(")

貸借対照表の増減（負債・純資産の部）

流動資産が営業未払金、未払法人税等を中心に11.3億円減少

(単位:百万円)

	2020年3月末	2020年9月末	前年度末比 増減額
流動負債	3,105	1,973	1,132
営業未払金	736	524	211
未払法人税等	607	107	500
固定負債	1,453	1,367	86
リース債務	404	360	43
負債合計	4,558	3,340	1,218
株主資本	27,315	27,642	326
利益剰余金	20,544	20,843	299
純資産合計	27,315	27,642	326
負債純資産合計	31,874	30,982	891
自己資本比率	85.7%	89.2%	3.5 pt

(注) 勘定科目の詳細は主要なもののみ示した。

【葬儀施行への影響】

- 1．社葬・お別れの会等、多数の参列者を想定する葬儀の開催
見合わせ（中止・延期）
- 2．参列者の減少による一般葬儀の小規模化
 - （1）葬儀本体の低価格化
 - （2）葬儀1件当たりの供花、供養品、料理、返礼品等、葬儀に付随する商品等の販売減少**葬儀単価の低下**

主な影響である1．及び2．のうち葬儀施行収入・単価にかかわる部分について、影響額を試算した（次ページ）

【当第2四半期業績への影響】

社葬・お別れの会等の大規模葬儀の開催見合わせの影響（当社推計）

大規模葬儀金額の過去5年間の2Q累計平均値と当2Q実績値との乖離として試算
公益社で 1Q: 3.6 億円 2Q: 2.5 億円 合計: 6.1 億円の減収

参列者の減少による一般葬儀の小規模化の影響（当社推計）

（簡易な低価格葬儀の増加、葬儀単価の低下）

一定の前提条件（ ）の下で試算

グループ葬儀3社で 1Q: 3.5 億円 2Q: 2.0 億円 合計: 5.5 億円の減収
（うち、公益社で4.0億円）

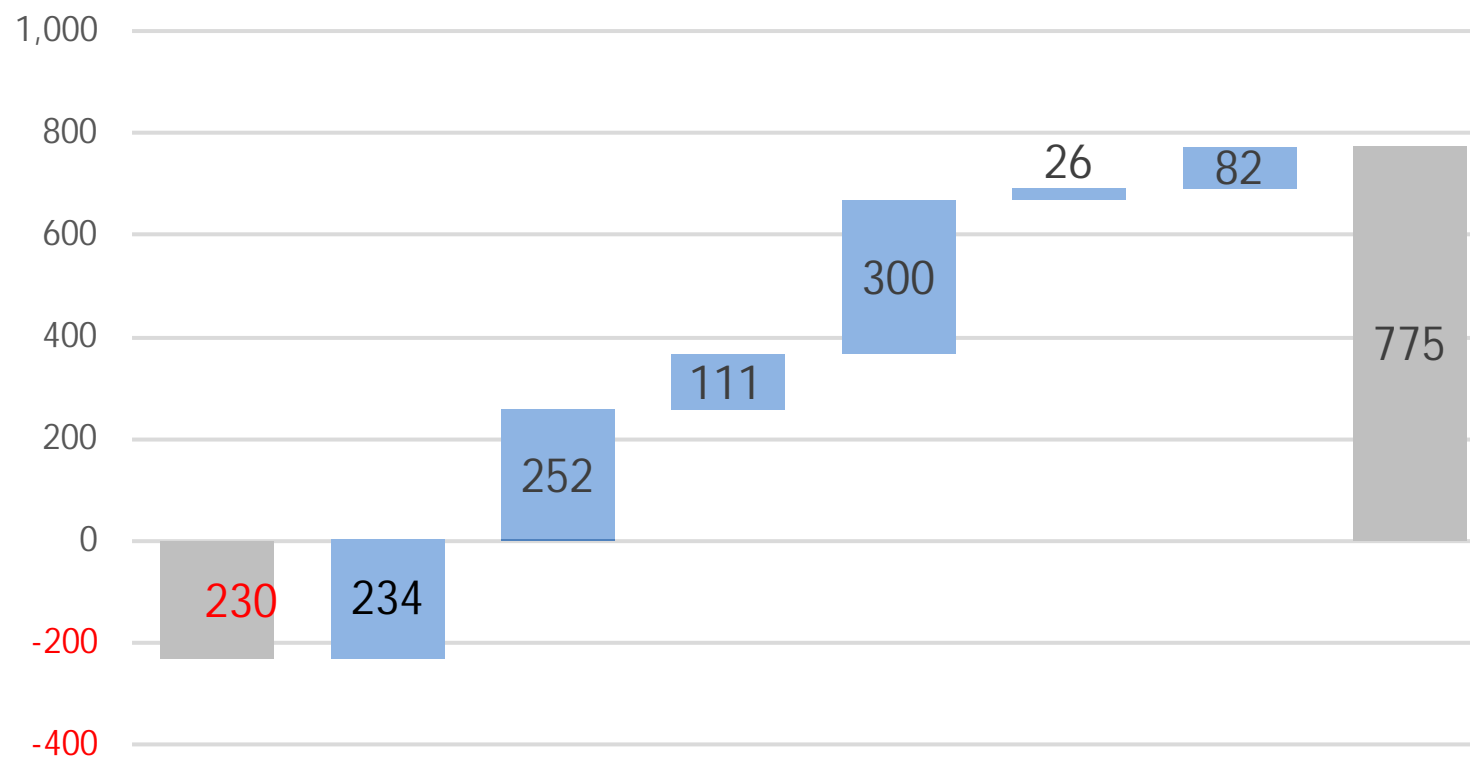
（参考）2020年2・3月: 1.1 億円

（ ） コロナ影響のない2019年4月から2020年1月までの累計実績に基づく
葬儀規模別の《件数構成比》と《葬儀単価》のもとで、各月の葬儀
件数があったと仮定した場合の葬儀施行金額をベンチマークとして、
これと実際の葬儀施行金額との差額を試算、集計

第2四半期業績予想と実績との乖離について

営業収益超過及び直接費率低減による限界利益の上振れ、並びに営業費用のうち統制可能費の未達（経費削減、下期繰延べ等）を主要因として、営業利益が予想より上振れ

(百万円) 営業利益の予想・実績差異の分析



営業利益 (予想)	営業収益超過	直接費率低減	営業費用の未達			一般管理費の未達	営業利益 (実績)
			人件費未達	統制可能費未達	固定費未達		

【新型コロナウイルス感染症の影響期間の前提の変更】

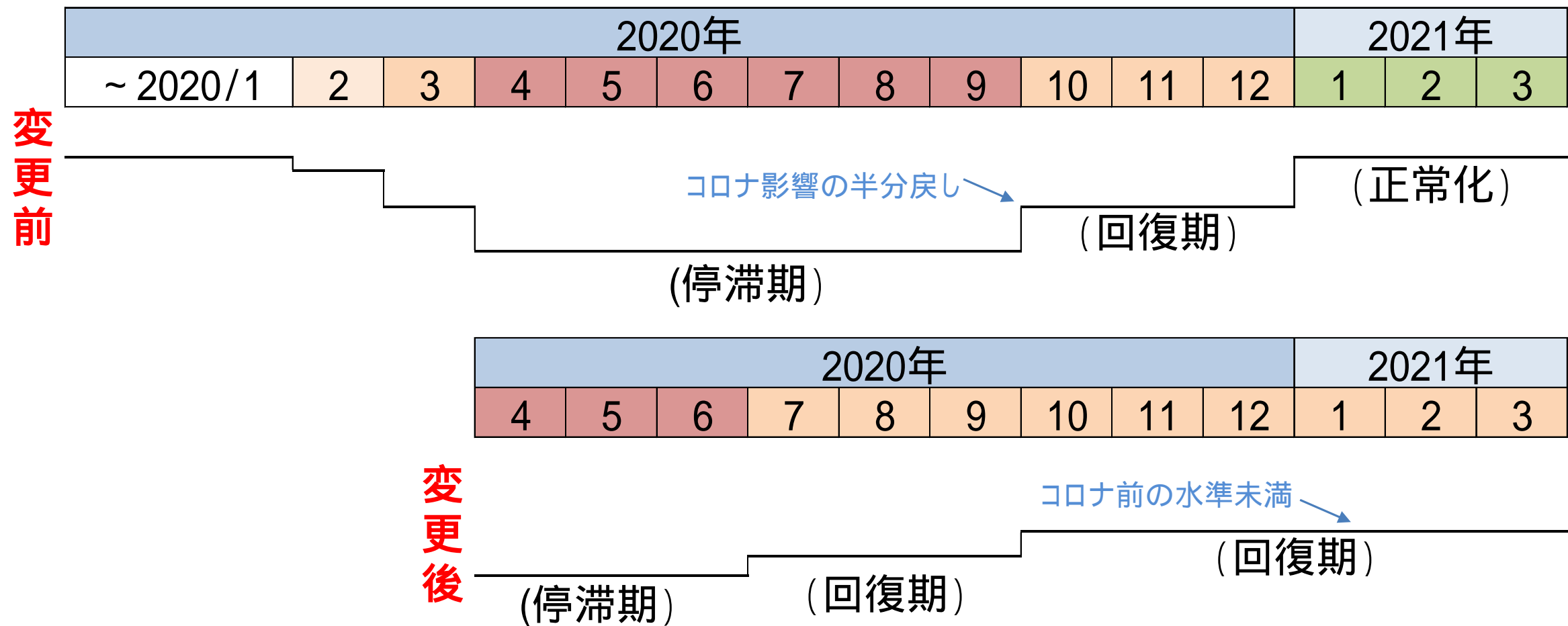
（変更前） 3Q末（2020年12月）まで影響が継続すると想定

（1Q・2Qは足元の状況が継続する「停滞期」、3Qは停滞期から脱却し、正常化するまでの「回復期」とする）

（変更後） 4Q末（2021年3月）まで影響が継続すると想定

（1Qはコロナ影響を強く受けた「停滞期」、2Qはそこからの回復の兆候が見られた。3Q・4Qは緩やかに回復する「回復期」とするが、コロナ前の状況には戻らないとする）

【一般葬儀のコロナ影響からの回復イメージ】



【主な前提】

- （営業収益）**
- ・ 葬祭3社とも想定される死亡者数の増加率に基づき、既存店および新店での一般葬儀件数を増加させる。
 - ・ 大規模葬儀件数は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための開催自粛により大きく減少する。
 - ・ 葬儀会館の新規出店は、グループ全体で4店（第3・第4四半期の開設）を予定
 - ・ 単価については、2020年3・4月で把握したコロナ影響による単価下落が、コロナ影響期間中（3Q末まで）は解消しないと予想
 - ・ 葬儀に付随する販売・サービスの提供についても、コロナ影響による参列者減少に伴う販売減を見込む。
- （費用）**
- ・ 新規出店、リニューアル投資に伴う消耗備品費、減価償却費、地代家賃等の増加を見込む。
 - ・ コロナ影響による減収に伴い、直接費の減少以外に業務量や業績に連動する人件費部分の減少を見込む。
- 【コロナ影響額】** ・ 通期で営業収益で27億円の減収、営業利益で15億円の減益を見込む。

上記が当初業績予想公表時点（5月）の主な前提等である。これらの諸前提を含め、コロナ影響に照らして業績予想の再検討を行った結果、先行きの不確実性がおお大きく、コロナの影響期間の前提を除き、修正を要するとの判断には至らず。

業績予想について（下期・通期）

- ・ 4Q（1～3月）の前提条件を「コロナ影響が続く」に変更するが、通期業績予想は当面据置とする。
- ・ 2Qの業績回復状況等をふまえると、下期予想数値は、営業収益に比べて利益を保守的に見積もっているが、今冬のコロナの感染拡大状況等を慎重に見極めた上で、予想修正の必要性を判断する。

（単位 百万円）

	FY2020 通期予想	前期比		FY2020 上期実績	進捗率	FY2020 下期予想	前期比	
		増減率	増減額				増減率	増減額
営業収益	19,400	-8.8%	1,881	8,604	44.4%	10,795	-1.0%	110
営業利益	1,500	-51.5%	1,591	775	51.7%	724	-54.9%	880
営業利益率	7.7%	-6.8 pt		9.0%		6.7%	-8.0 pt	
経常利益	1,460	-52.4%	1,604	765	52.4%	694	-55.9%	880
当期純利益	880	-52.6%	976	478	54.3%	401	-54.3%	476

	FY2019 通期実績	前期比		FY2019 上期実績	構成比	FY2019 下期実績	前期比	
		増減率	増減額				増減率	増減額
営業収益	21,281	2.5%	514	10,375	48.8%	10,905	1.5%	161
営業利益	3,091	5.2%	151	1,487	48.1%	1,604	8.2%	122
営業利益率	14.5%	0.3 pt		14.3%		14.7%	0.9 pt	
経常利益	3,064	4.3%	127	1,489	48.6%	1,574	6.3%	93
当期純利益	1,856	-12.1%	255	979	52.8%	877	-18.0%	192

(2021/3期)

中間配当@16円(実績)

期末配当も@16円を予定し、年間で1円増配の@32円の予定

(単位:円)

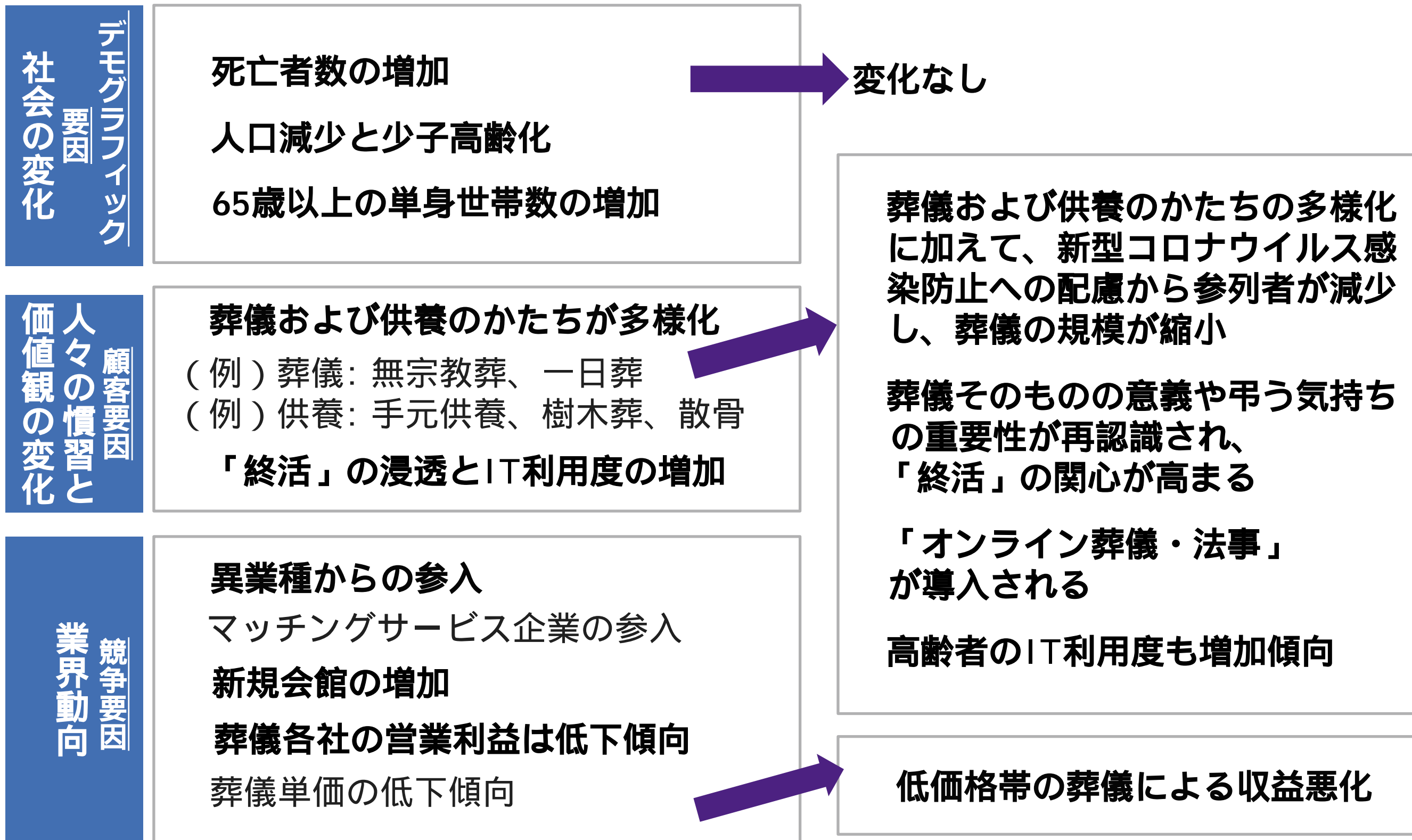
FY 決算期	2015 2016/3	2016 2017/3	2017 2018/3	2018 2019/3	2019 2020/3	2020 2021/3
年間配当金	40.00	45.00	50.00	57.00		32.00
中間	20.00	22.50	24.00	27.00	30.00	16.00
期末	20.00	22.50	26.00	30.00	16.00	16.00
配当性向(連結)	61.0%	18.8%	17.9%	15.2%	18.8%	40.7%

(注1) 2019年10月1日を効力発生日とする1:2の株式分割を実施

(注2) 2021年3月期の数値については、中間配当は実績、期末配当ほかは予想

従来

Withコロナでの変化



大規模葬の減少

新型コロナウイルスの影響により法人葬（大規模葬）が減少

大人数が参列する法人葬（社葬・お別れの会）は、開催を予定していた多くの企業が新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、延期もしくは中止という判断をせざるを得ない状況となりました。

当社では当初、年内一杯、大規模葬の開催は難しいではないかと想定しておりましたが、当社の徹底した感染防止対策や新しい生活様式を取り入れた運営方法の提案により、6月から徐々に開催する企業も出始めており、現在のところ回復傾向にあります。

葬儀単価の低下

新型コロナウイルス感染防止への配慮を背景とした参列者の減少により葬儀単価が低下

参列者の減少により、葬儀施行収入および料理や供養品・返礼品といった関連収入が減少しました。公益社の葬儀施行単価では前年同期比14.4%低下しました。

安心して葬儀を実施いただけることを訴求し、オンラインサービス等の新たなニーズに合わせたサービスを提供しております。

徹底した感染症対策をしたうえで法人葬（お別れの会）を施行

2月以降開催延期となっていたお別れの会が、6月から徐々に開催されるようになってきました。

会場入口での検温、
様々な場面での
ソーシャルディスタンスの確保、
飛沫感染予防の対策、
手指消毒や拭き取り消毒など殺菌
対策などの感染症対策を徹底した
安全・安心のお別れの会を
お客様へ提案しております。



リモート参列のサービスを導入

葬儀に参列できない遠方にお住まいの人のために、遠方からでも故人とお別れができるよう「リモート参列サービス」（無料）を導入しています。

ご遺族は、ご自身のパソコン、タブレット、スマートフォンを式場に持参いただければ、当社が準備したWiFi端末、ホルダー、三脚などの機材を使って葬儀の様子を撮影して配信することができます。



参列を複数回に分けた葬儀を提案

参列者が密にならないよう、お参りいただく時間を複数回に分けて分散し、式場内の座席間隔を空ける等、安心してお別れしていただける式運営を行っております。

新型コロナウイルスで亡くなられた方の葬儀で安心を提供

従業員を感染症から守り、ご遺族や参列者の健康を守るために、厚生労働省等、行政機関から明確なガイドラインが出されていない3月の初めに、当社独自の対応マニュアルを作成し、地域の医療機関や警察へ説明にまわりました。

ご遺族に負担をかけないよう、火葬場や医療機関とのやり取りは当社で行い、ご遺族が安心してお別れすることができる、安全な場・環境づくりを行っております。

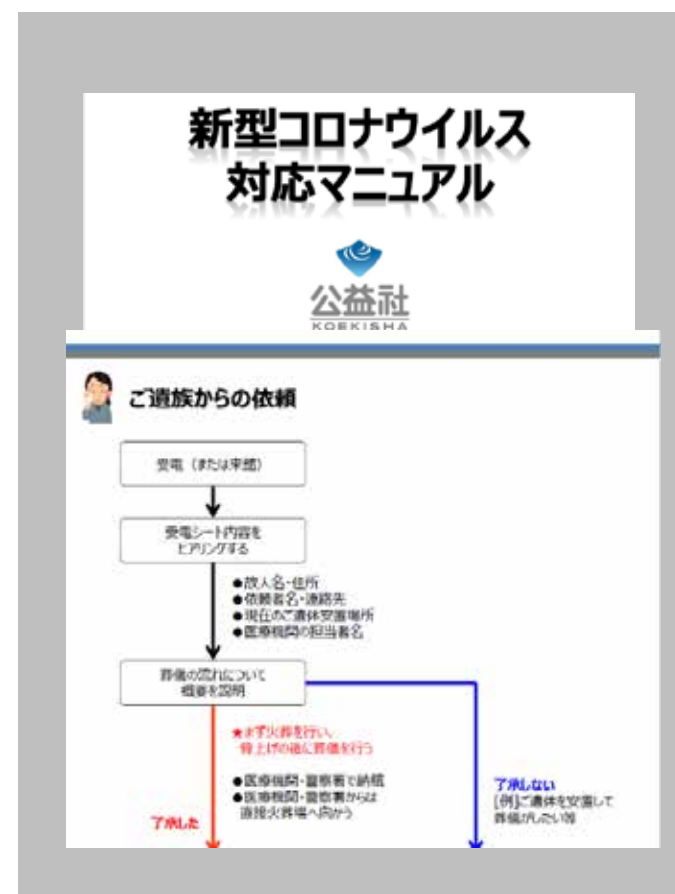
『故人ときちんとお別れしたい』というご遺族の気持ちを叶えるために、式の運営方法を工夫したり、後日のお別れの会の開催提案を行う等、常にご遺族の気持ちに寄り添った取組みを行っております。



目張りをしたお棺



非透過性納体袋



マニュアルの一部

新しい生活様式下の葬儀へ

オンライン事前相談を実施

会館にお越しただかなくても事前相談が可能です。
遠方に離れて住むお子さんと親御さんと3方向でのオンライン対応も行っています。
同じ画面を見ながらご説明いたしますので、お電話だけでは伝わらない情報もお伝えできます。

オンラインセミナーを随時開催

これまで各会館や会場で開催しておりました葬祭ディレクターによる家族葬セミナーをオンラインで随時開催しております。



1 新経営理念の浸透

2 人財力の強化

3 サービス品質の向上

4 業務効率の改善

5 ライフエンディング
サポート事業の拡充

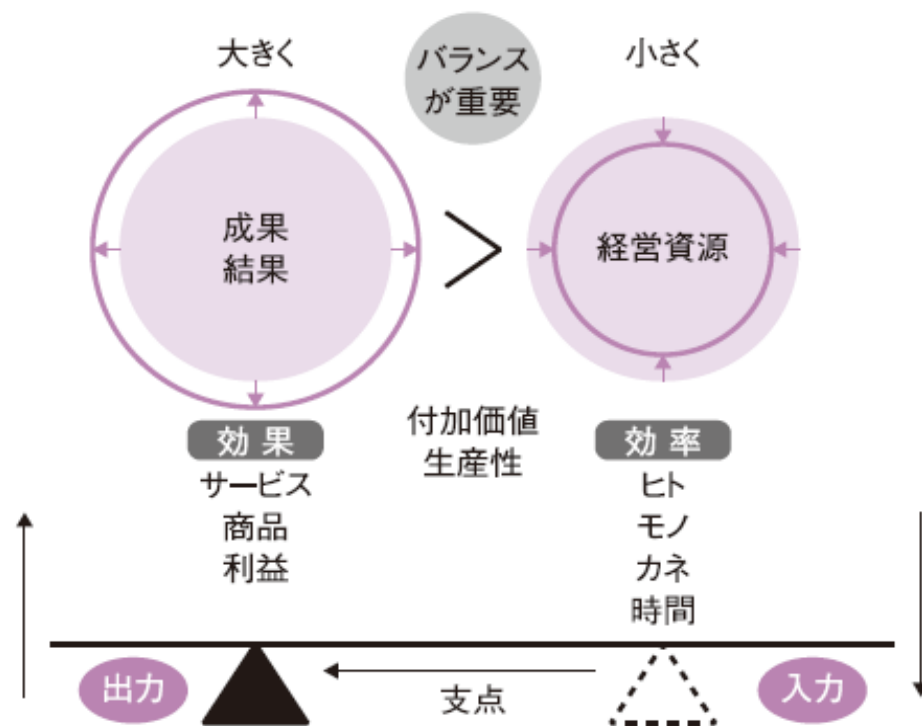
6 新規事業の収益力強化

7 葬儀事業の積極的な
営業エリアの拡大

8 リスクマネジメントの強化

業務内容や役割の見直しおよびIT化等により業務改善を図り、生産性の向上に取り組む。

業務効率の改善により安定的な利益確保を目指します



前期にシステム&オペレーション部を新設し、生産性向上プロジェクトを発足しました。主に公益社の業務内容や役割の見直しを行うことで業務改善に取り組み、今期に入って公益社の業務改善が営業費用の低減につながるなど、徐々に効果が現れてきています。

今後もプロジェクト活動を強化し、さらなる業務改革を推進してまいります。また、生産性向上につながる新たなITシステムの構築も進めております。

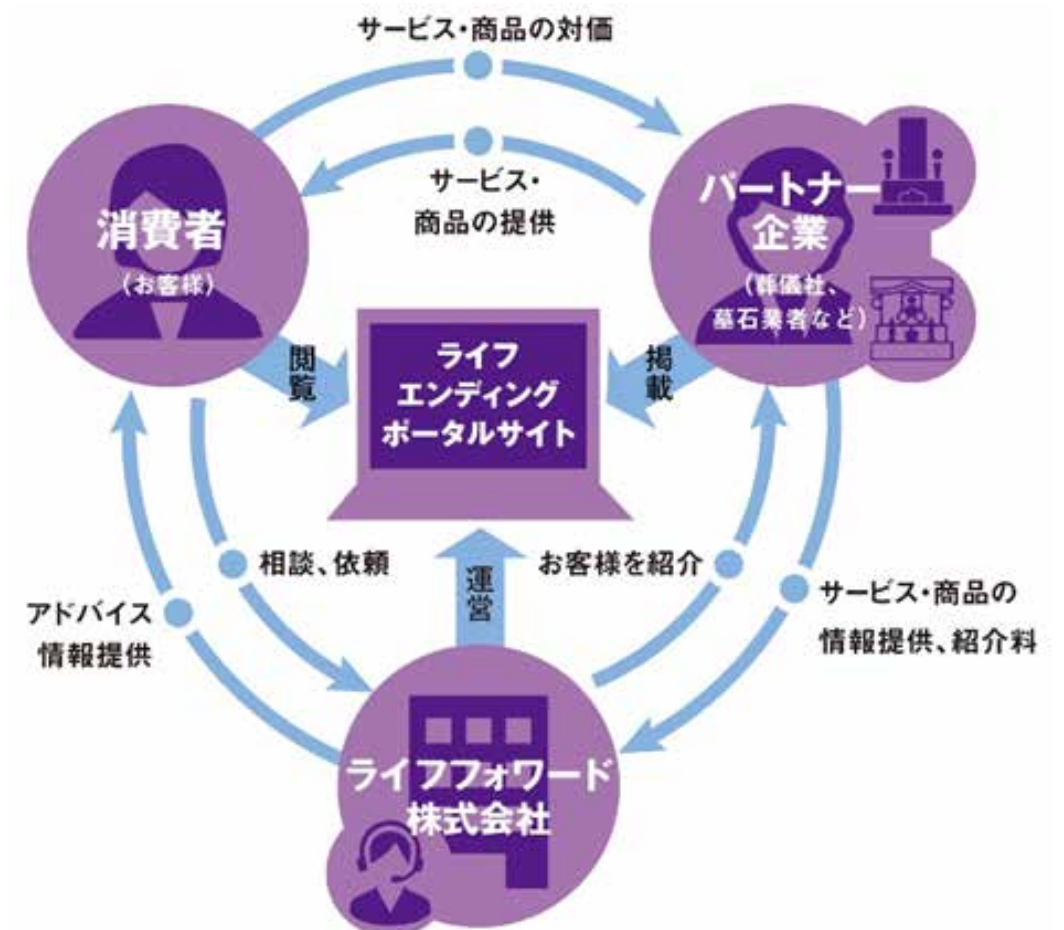
ライフエンディングサポート事業を行う新会社を2020年4月に設立

- u 生前に自身の葬儀のことやお墓・相続について考える消費者の増加
- u ライフエンディングステージに必要とされる商品・サービスへのニーズの高まり
- u 高齢者を含むインターネット利用率の高まり

新会社「ライフフォワード株式会社」を2020年4月に設立、7月から事業を開始

【ポイント】

- u 信頼できる事業者（パートナー企業）と提携
- u ポータルサイトでの紹介を通じて消費者が安心・信頼できる品質の良いサービス・関連商品を提供
- u 「葬儀」「お墓」を紹介するポータルサイトの運営からスタート
- u 徐々にその事業領域を拡大しながらライフエンディングサポート事業の拡充を図り、消費者の多様なニーズに対応



終活関連ポータルサイトの運営を開始 ～ 葬儀とお墓の紹介から～

7月に開設 <https://www.eranda.jp>

事業領域を徐々に拡大しながら
ライフエンディングサポート事業の拡充を
図り、消費者の多様なニーズに対応してま
いります。



終活関連情報をお届け



お葬式に関する情報や葬儀社・セレモニーホールをご紹介



お墓に関する情報や石材店・霊園、納骨堂等をご紹介

ライフエンディングのトータルサポート企業を目指します

様々なサービスを
シームレスに

ご葬儀の前

ご葬儀

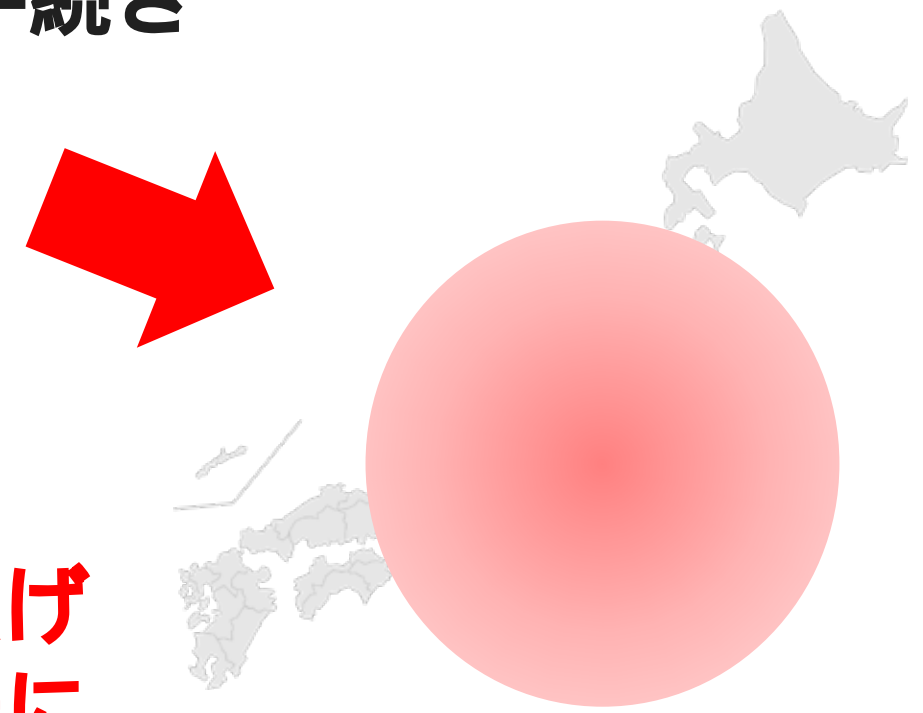
ご葬儀の後

事前相談



- 相続相談
- 仏壇、お墓
- 手続き

営業エリアを広げて
幅広いお客様に



基本方針 7. 葬儀事業の積極的な営業エリアの拡大

東西の大都市圏を中心にエリアの拡大を行う

2020年3月期

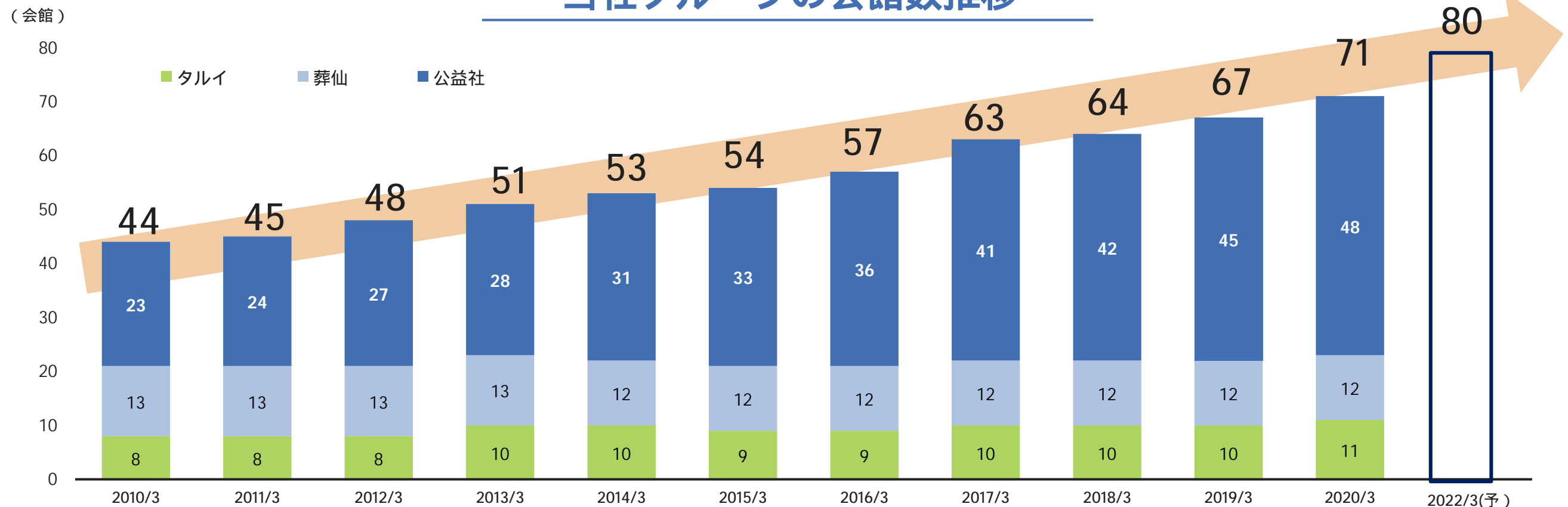
大阪府寝屋川市に公益社香里園会館、兵庫県明石市にタライ会館北大久保、兵庫県川西市に公益社川西多田会館、大阪府枚方市に公益社枚方出屋敷会館をオープンしました。

2021年3月期

2021年3月期は下期に4会館のオープンを計画しておりましたが、物件の確保が遅れております。2022年3月時点で80会館を目指し、立地と投資効率を追求してエリアの拡大をおこなってまいります。

2022年3月時点で
グループ合計
目標80会館

当社グループの会館数推移



中期経営計画数値および業績予想 (2020年3月期～2022年3月期)

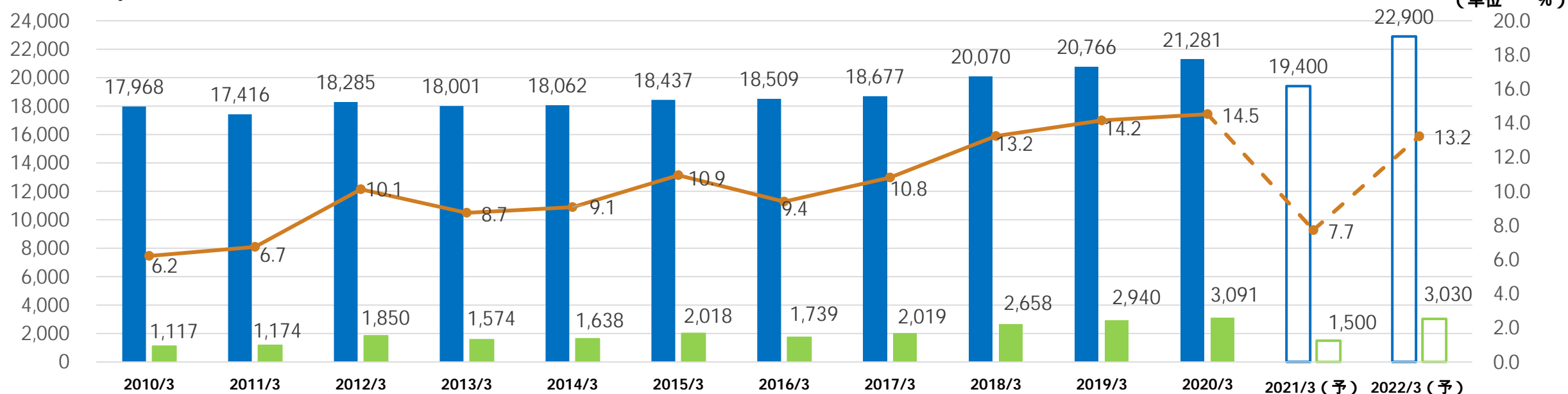
損益目標

()内は対前期実績の増減率

	中計1年目 2020年3月期 実績	中計2年目 2021年3月期		中計3年目 2022年3月期 中計数値
		業績予想	中計数値	
営業収益	212.8億円 (+2.5%)	194.0億円 (-8.8%)	221.0億円 (+3.9%)	229.0億円
営業利益	30.9億円 (+5.2%)	15.0億円 (-51.5%)	29.0億円 (-6.1%)	30.3億円
売上高営業利益率	14.5%	7.7%	13.1%	13.2%

営業収益および売上高営業利益率の推移

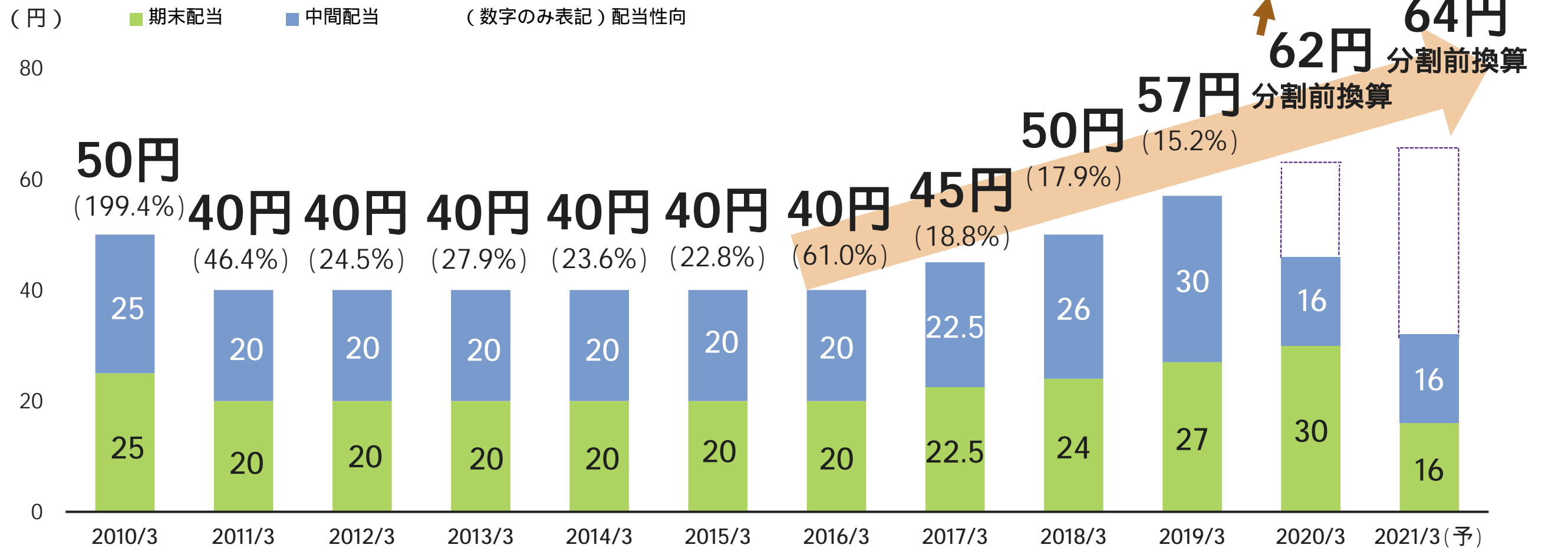
(単位 百万円)



安定配当を基軸とした株主還元の向上

株主様への還元を中長期的に充実させてまいります。
 剰余金の配当につきましては、連結業績および資金の状況、中長期的な成長投資のための内部留保の確保、
 ならびに財務の健全性等を総合的に勘案しながら、
 厳しい環境下においても安定配当を基軸としつつ増配を維持します。

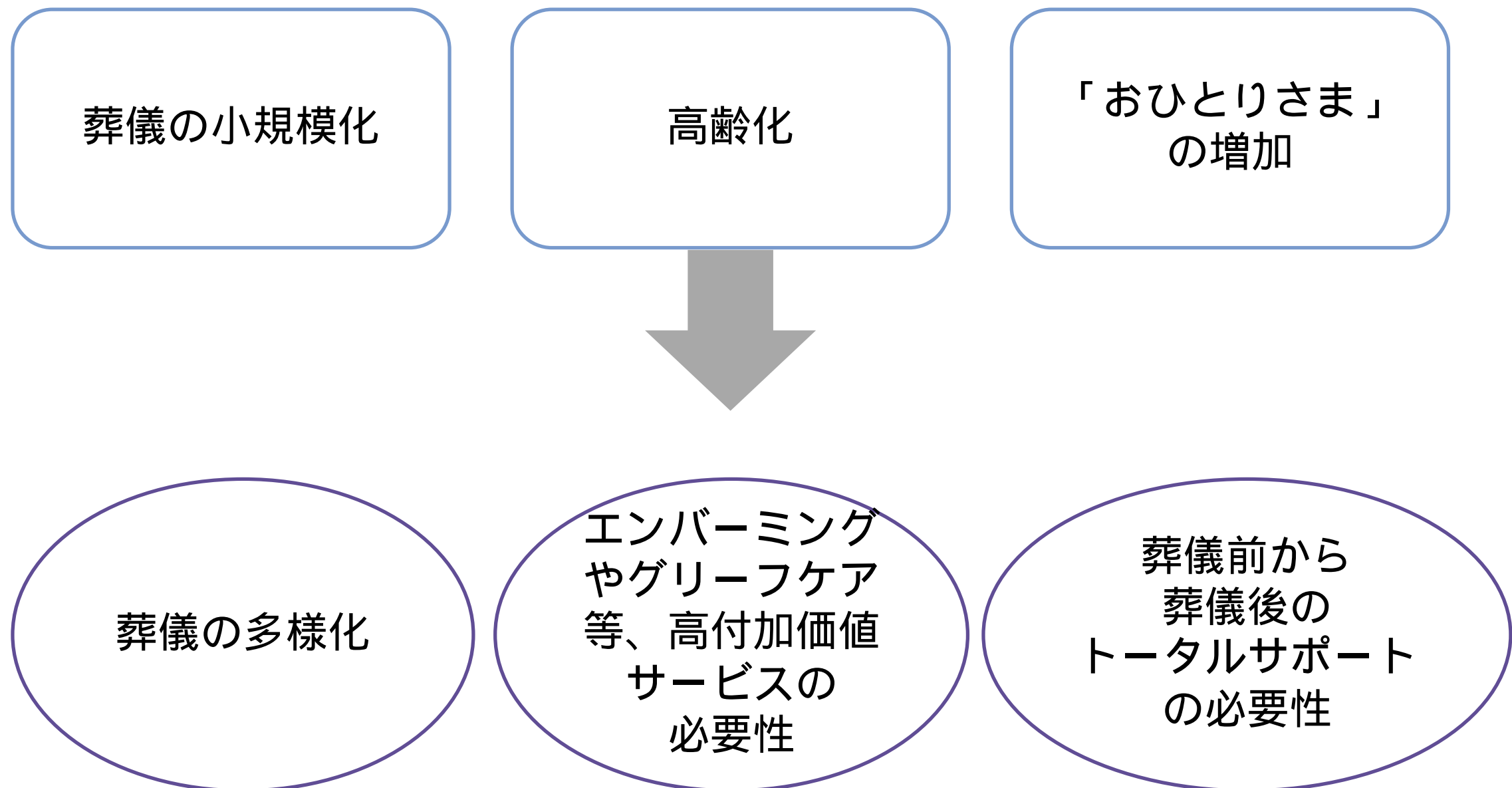
1株あたり年間配当額の推移



点線部分は、株式分割前換算の1株あたり年間配当額を示しています。

With コロナの葬儀および当社が目指すところ

多様化は進むものの、
葬儀そのものの価値は今後も変わらないものと考えております。
環境変化に対応し、高付加価値サービスの提供と
ライフエンディングのトータルサポート企業を目指します。



ご参考資料

コロナはお世話になった人に「感謝をのべ“弔う”気持ちを表す」ことの重要性を知った機会でもありました。別れの儀式を経て、人は前に進むことができます。

4月下旬に意識調査を行ったところ、

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で66%が「葬儀の簡略化」、「葬儀の小規模化」などの変化を感じている。

葬儀の簡略化・小規模化は、**86%が「今は感染拡大の影響下なのでやむを得ない」**が、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で葬儀が簡略化・小規模化しても**感染拡大の終息後は67%が「故人をしのぶ機会」**を望んでいる。

また、新型コロナウイルス拡大の影響で**半数近くの人が自身や身内の葬儀（死）を意識**。新型コロナウイルス感染拡大の影響下で葬儀や死を意識した方は、**「きちんとお別れしたいと思った」「死後のことを家族で話し合おうと思う」**。

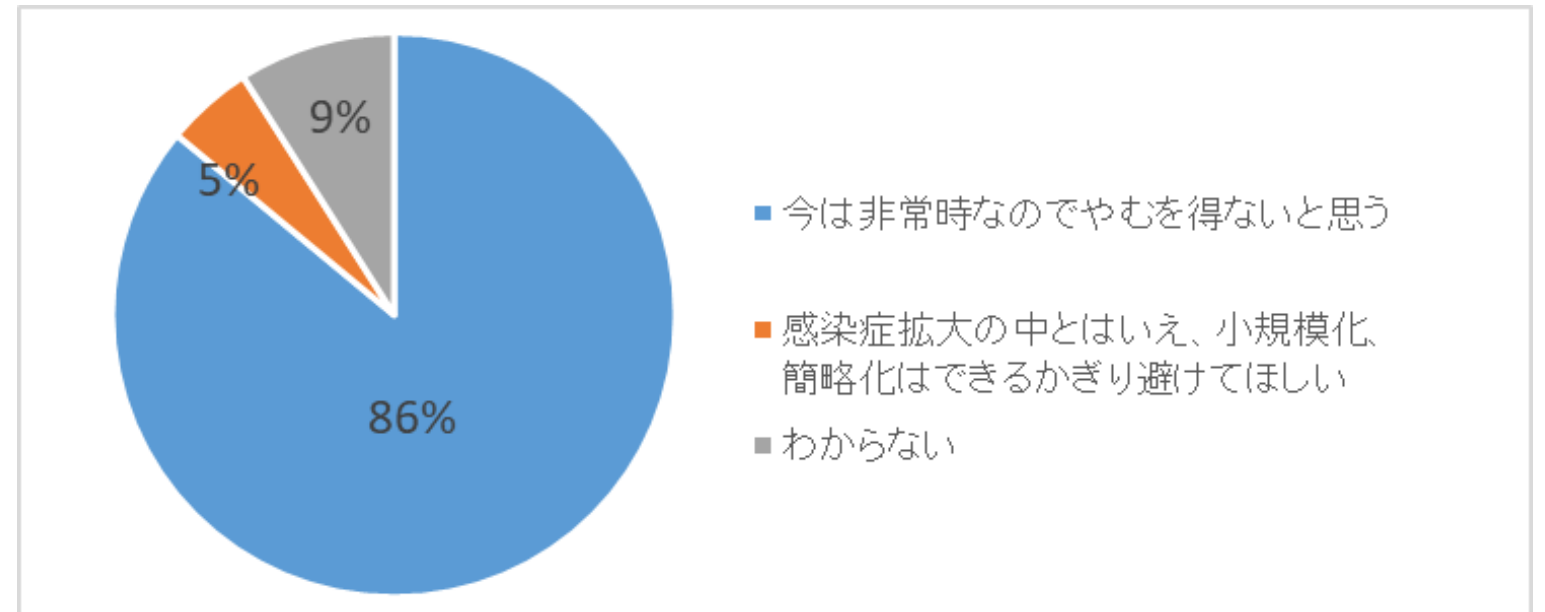
[調査概要]

調査名	: 新型コロナ感染症拡大 影響下における葬儀に関する意識調査
調査期間	: 2020年4月20日～21日
調査対象	: 首都圏(東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県)、近畿圏(大阪府、京都府、兵庫県、奈良県)に在住する 35～65歳の男女
回答者数	: 100名
調査手法	: インターネット調査

感染拡大の影響下での葬儀について（調査結果）

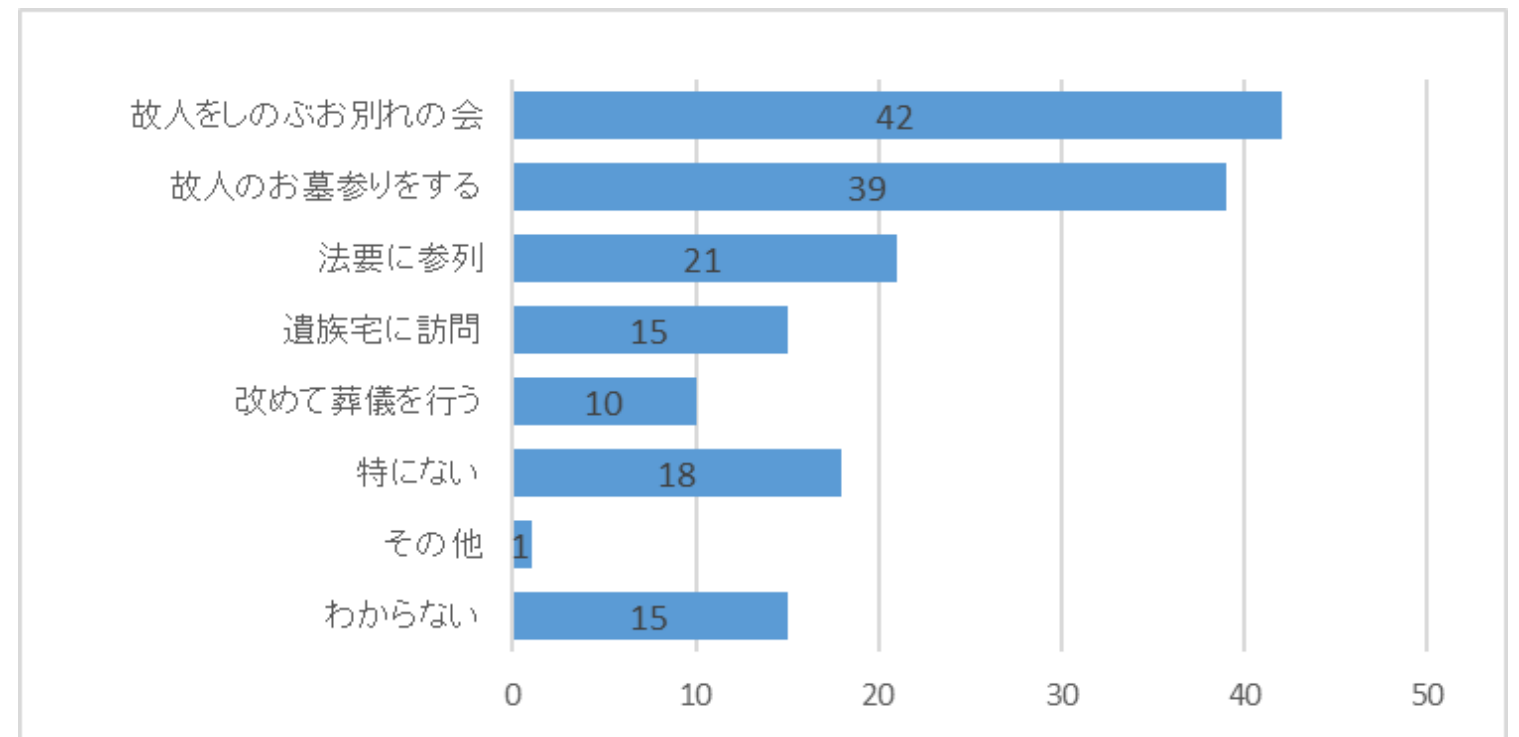
Q. 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、葬儀が小規模・簡略化するケースもあることをどのように思いますか （n=100名）

新型コロナウイルス感染症拡大による葬儀の小規模・簡略化に対し86%の人が「今は感染拡大の影響下なのでやむを得ない」と思っている。



Q. 新型コロナウイルス感染症拡大の影響下で、葬儀を小規模・簡略化した場合、感染症終息後にどのようなことがあれば良いと思いますか （n=100名） 複数回答/「特にない」「わからない」は単一回答

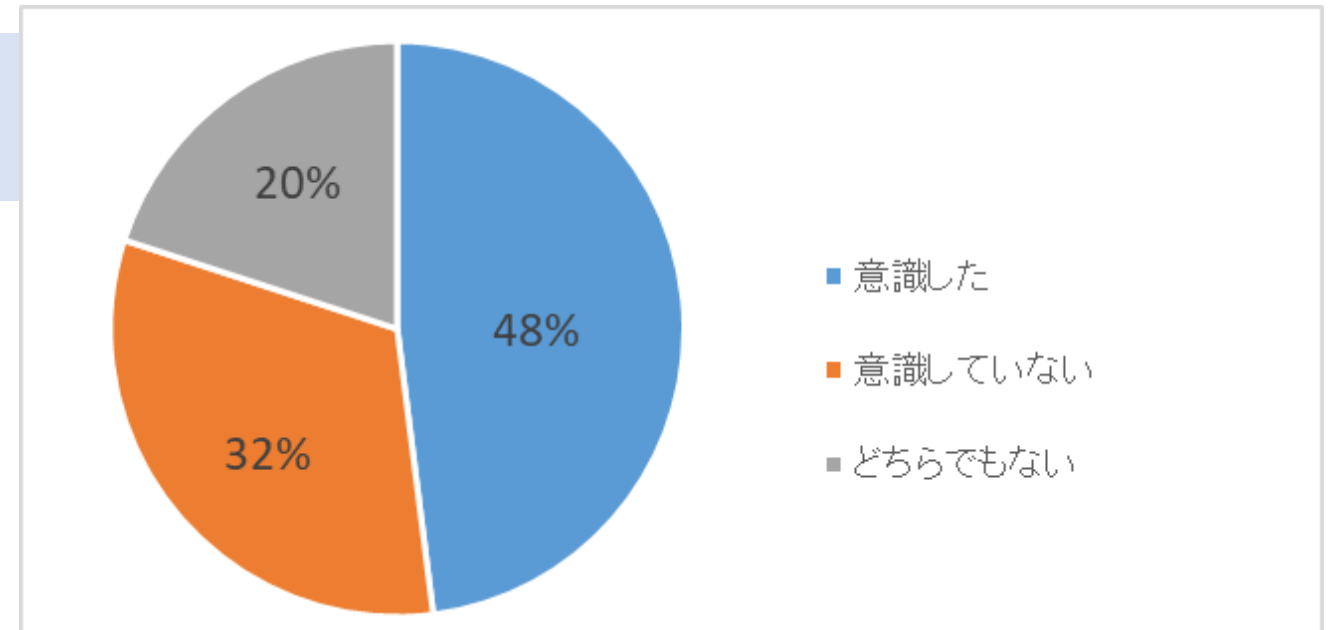
新型コロナウイルス感染症が終息したら「お別れの会」「お墓参り」など故人をしのぶ機会を持ちたい方が2/3を占める。



(名)

Q. 新型コロナウイルス感染症拡大の影響下で、自分自身や身内の葬儀（死）を意識したことはありますか（n=100名）

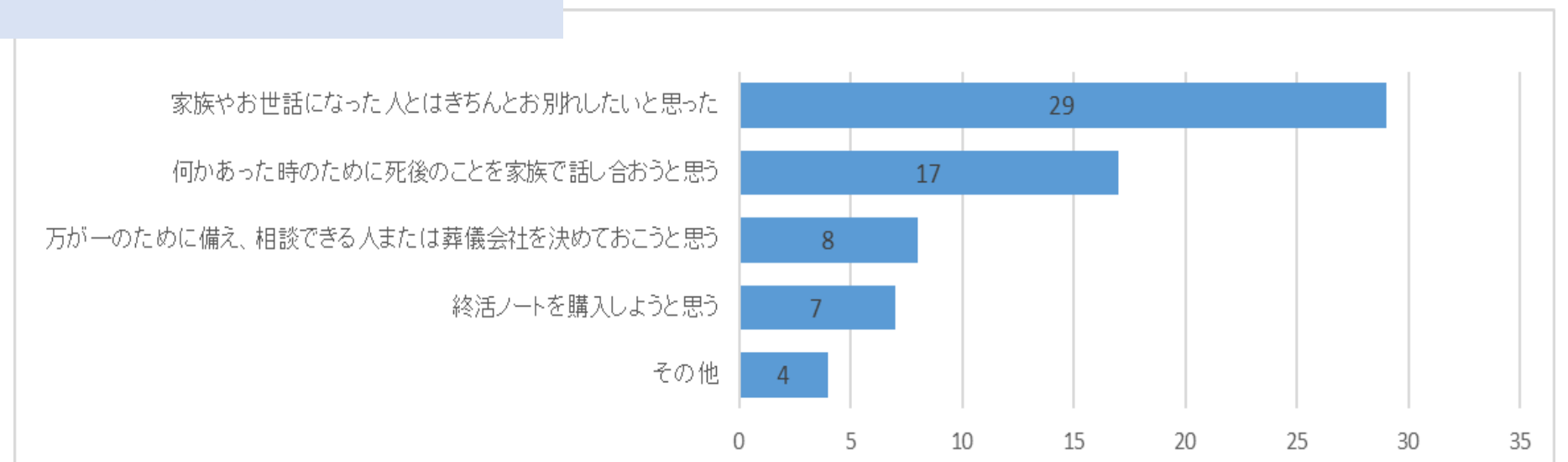
新型コロナウイルス感染症拡大をきっかけに葬儀や死を約半数の方が意識したと回答



Q. どのようなことを意識しましたか（n=48名） 複数回答

新型コロナウイルス感染症拡大の影響下で葬儀や死を意識した方は

「きちんとお別れしたいと思った」
「死後のことを家族で話し合おうと思う」



会社概要

社名	燦ホールディングス株式会社
設立	1944年（昭和19年）10月2日 （創業1932年8月）
資本金	25億6,815万円
上場市場	東証1部 / 証券コード 9628
営業収益	21,281百万円（2020年3月期）

事業エリア

首都圏（東京、神奈川）

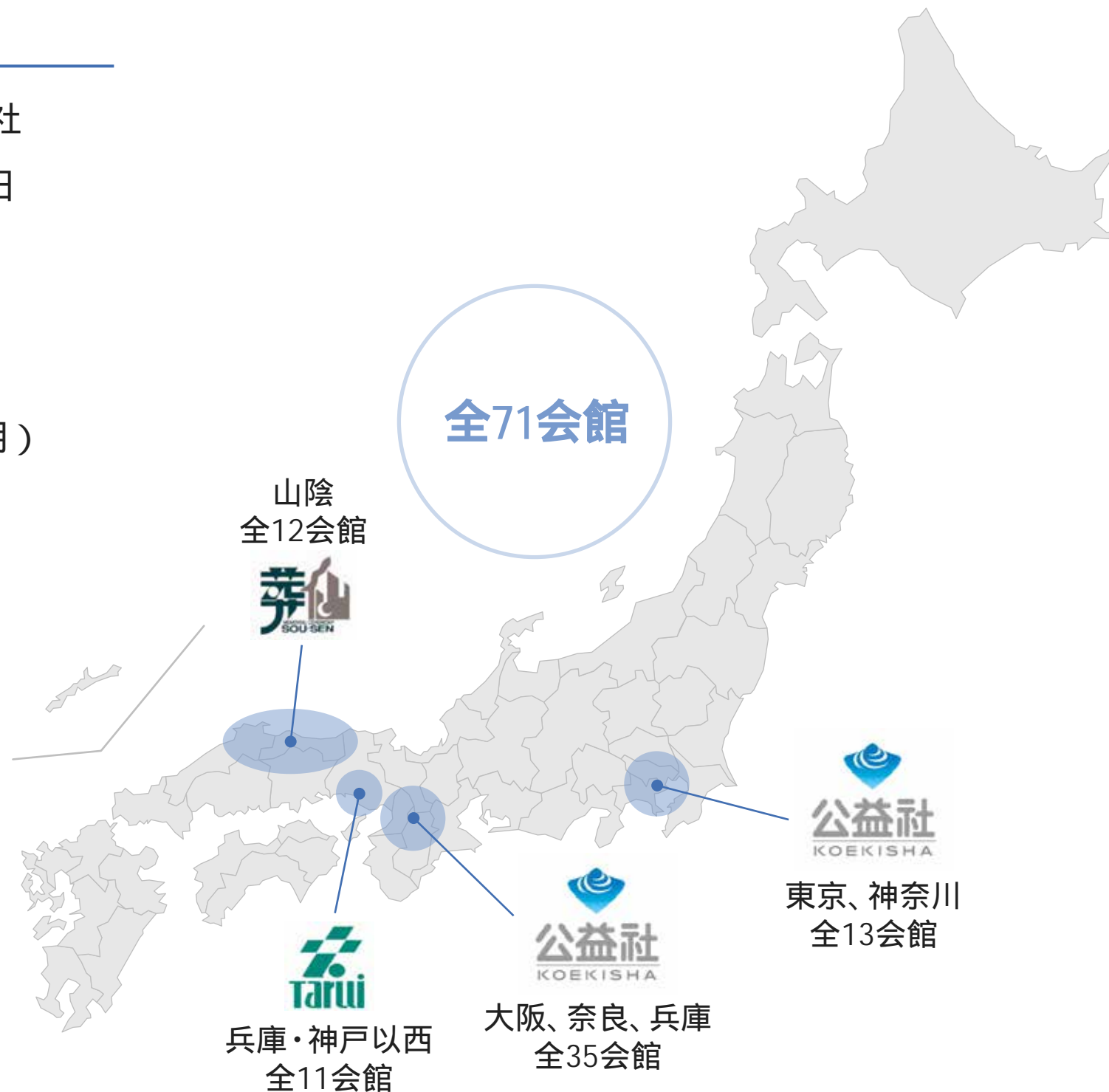
関西圏（大阪、兵庫、奈良）

山陰地方（鳥取、島根）

業界特性

監督官庁がなく、規制がない業界

参考）業界規模...年間死亡者数約129万人（2016年）
2040年まで約170万人の死亡者数が予想される。
年間約1兆5,566億円（129万人×121.4万円）



経営理念

人生に潤いと豊かさを。よりよく生きる喜びを。

葬儀事業からライフエンディングのトータルサポート企業へ

新しい価値、高い付加価値を提供することにより、

商品やサービスを通じてお客様と地域の人々の人生に潤いと豊かさを感じてもらうこと、よりよく生きる喜びを感じてもらうことが社会に果たすべき使命であることを意味しています。

事業内容

葬儀の前のご相談から葬儀後の手続き、お墓などの手配、残されたご家族へのサービスまでライフエンディングをトータルにサポートしています。

ご葬儀の前

ご葬儀

ご葬儀の後

事前相談



相続相談
仏壇、墓
手続き

《注意事項》

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

お問合せ先： 燦ホールディングス株式会社 経営企画部
TEL 06-6226-0038

2020年11月30日

2021年3月期第2四半期決算説明ライブ配信